

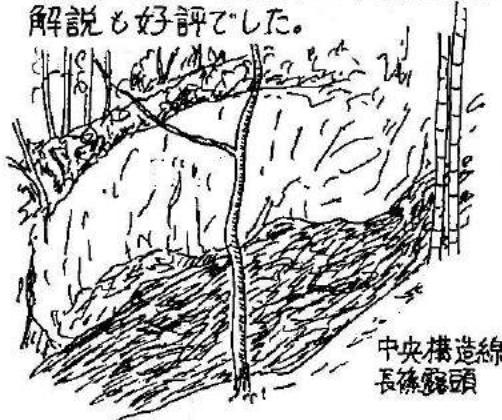
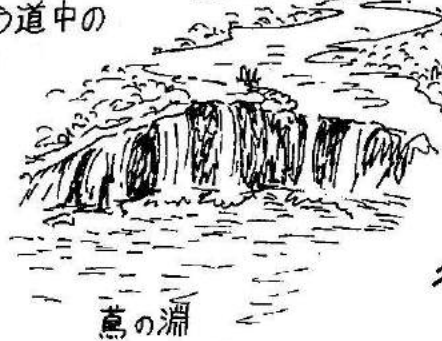
師走の博物館



奥三河の大地をめぐるジオツアー
(平成27年12月5日、はれ、34名参加)

東三河ジオパーク構想の連携事業として初のジオツアーです。豊橋市自然史博物館の松岡館長と当館館長、学芸員がジオガイドをつとめました。中央構造線長篠露頭、東栄町の蕪の淵、栗代鉱山をめぐるツアーです。

豊橋駅発のバスで、現地へ向かう道中の車窓から見える地形とくらし、歴史の解説も好評でした。



博物館大そうじ大会

(平成27年12月20日、12名出動)

恒例の大そうじ大会をおこないました。博物館協力隊のみなさんと職員がいっしょになって作業を進めました。展示ケースのガラスふき、散り積った落ち葉の片付け、屋根裏収納庫内の整理整頓、地階倉庫にぎっしりつまった岩石、化石、鉱物資料の整理、移動などです。開始時間を早めてとりかかりましたが、それでとまるまる一日を費す作業となりました。

お昼の休憩時には、澤田さん提供のシシ肉と、館長提供の野菜でシシなべで力をつけ、午後にそなえました。

協力隊のみなさん、おつかれ様でした。一年間、ありがとうございました。



友の会「冬の秘境探検」

(平成27年12月6日、くもり、22名参加)

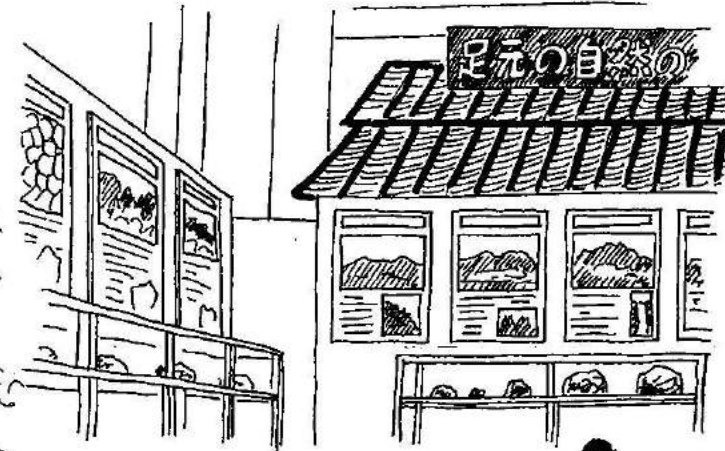
会員限定の友の会行事でした。三河川合駅を出発し、亀淵川の支流の百間川にある玄々の滝を目指しました。所々崩れた山道を1-2時間歩き、溶結凝灰岩が深くえぐられた、垂直の岩壁に囲まれた空間にたどり着きました。そこに川合の百間滝はありました。落差を測ると、約18m。みごとな滝です。さらに上流に進むと本の大きな滝が現れ、まさに秘境の知られざるスポットでした。



冬の特別展「足元の自然の魅力再発見」

(平成27年11月5日～平成28年2月29日まで開催)

新城市内のジオ的な見どころについて、景観や石垣、滝、山など、ふだん見なれた風景の中にある秋められた魅力を紹介しています。



学術委員全体会議

(平成27年12月3日)

全学術委員18名が集まり、平成28年度の野外学習会、講座、特別展、調査活動などについて協議しました。来年度も盛りだくさんの博物館活動になります。



はっかだり 10.18/2015.12

迎春準備(平成27年12月31日)

博物館入口に素敵な門松が立てられました。丸山会長(友の会)の作品です。毎年、年末に作っていただいています。ありがとうございます。



ガイドツアー

- 12月1日 豊橋市大村小学校 24名+T3名
- 12月9日 鳳来西小学校 11名+T3名
- 12月12日 新城市文化協会 13名
- 12月18日 鳳来中学校1年 83名+T7名

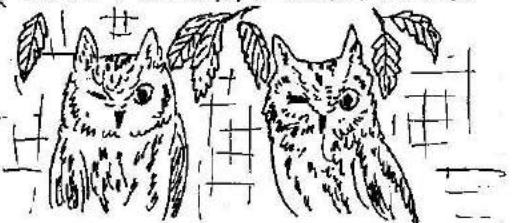
飼育している生きものたちも、それぞれの迎春準備に入っています。



イシガメ、フサガメは冬眠中。



サンショウウオは静かに動いています。



オコリハズクはふだんとおりです。

新春と博物館

新城市の自然誌-植物・きのこ編- 発行
(平成28年3月18日、1,000部印刷)

博物館開館50周年の事業として発行してきた「新城市の自然誌」三部作の最後の巻です。今回は市制10周年の意義も込められています。植物・きのこをあわせて、全38ページの大冊になりました。

新城市民のみなさんには、ぜひ手元においていただきたいと思います。



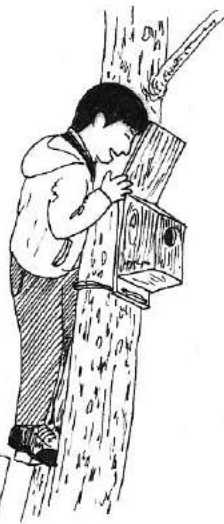
野外学習会「豊川中流域の地質と地形」
(平成28年2月7日、晴れ、22名参加)

三波川変成帯の結晶片岩を桜淵公園で観察し、続いて中央構造線の長篠露頭で三波川帯と領家帯がぶつかる様子を見学しました。

午後は新城トナリ岩を猿橋と花ノ木公園で観察しました。最後は弁天ダムまで足をのびし、領家片麻岩とそこに貫入した安山岩のみごとな岩床を見学しました。



弁天ダム



コノハズツ巣箱調査
(平成28年2月28日)

鳳来寺山のコノハズツ(声の仏法僧)の復活を願って、平成8年から巣箱を掛けてきました。鳳来寺山一帯に、のべで83個になります。その利用状況を確認する調査です。博物館協力隊と黄柳野高校のグレートアースのメンバー、博物館職員の総勢18名で、3班に分かれて実施しました。

結果は、モモンガ、ヒメネズミ、ヤマカガシ、シジュウカラなどの利用でした。残念ながらコノハズツの利用した痕跡は見つけられませんでした。でも、あきらめていません。



はつかわだり No.182
2016.4

幸田町のオオコノハズツ
(平成28年2月12日)

左翼を骨折したオオコノハズツが運び込まれました。飛ぶことができません。「カチッ! カチッ!」と威嚇するくせに、餌はすんなりと食べてくれました。12日後にはコノハウスでリハビリを開始しました。

中学校へ出前授業(平成28年2月22、23日、3月18日)

新城市立幸田中学校1年理科の授業の出前をしました。学芸員の西村が担当しました。教科の先生と何度も打合せをし、教材をつくりこんで授業にのぞみました。

テーマは「大地の変化〜新城の地形に隠された謎〜」です。郷土の大地のなり立ちの時間やスケールの大きさを感じてもらえたと思います。

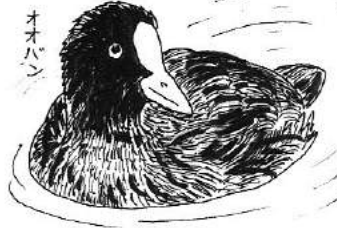
博物館では、出前の授業や講座を積極的に、おこなってまいります。



野外学習会「桜淵の野鳥を観察しよう」
(平成28年1月10日、晴れ、29名参加)

今年は35種の野鳥が確認できました。例年よりもかなり多い種数でした。

上空にはハイタカが姿を見せ、水上ではカモのなかまの他に、最近、数を増しているオオバンも泳いでいました。



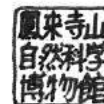
オオバン

特別展「ジオから見る戦国の舞台」
(平成28年3月26日〜6月30日)

歴史の舞台になった新城地方の城や戦場をジオ(大地)の視点でながめる特別展です。1万5千の武田軍を5百の城兵で守りぬいた長篠城の地形と地質。湿原に浮かぶ古名城。段丘で死闘がくりひろげられた設楽原の決戦など、市内の戦跡をパネルで紹介しています。展示を見てから現地に立つと、戦国の武将の視点で「地形や縄張りが見えてくる」かもしれません。

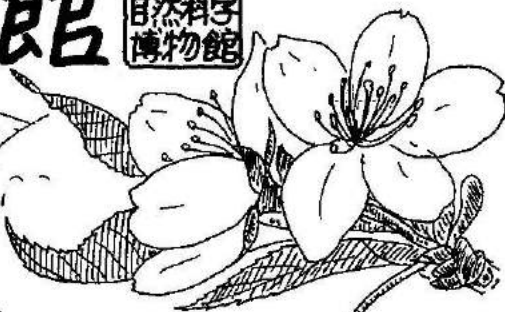
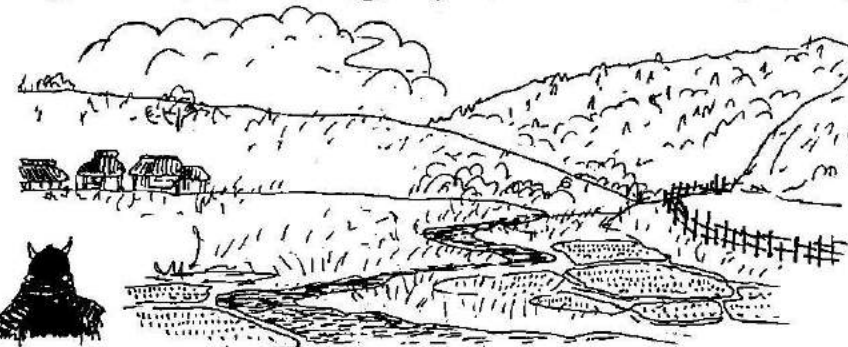
館報45号完成(平成28年3月30日)

コムツキムシ類、カムシ類、チョウ類、フモ類、ホウライシギヤセル、ミカフキセル、水生昆虫、カタワリ、蘚苔類、ミスゴウケ、東三河の植物分布情報など、11件の調査研究報告と、博物館の事業報告、はつかわだりを収録。



若葉の季節と博物館

鳳来寺山
自然科学
博物館



春らんまん (平成28年4月4日)

鳳来寺山麓のソメイヨシが満開。新城市の木であるヤマザクラも新葉と花をいっしょにみろけました。ヤマザクラが散る頃にはカスミザクラやヤマアキが見頃を迎えました。

はっぴなだり No.183
2016.5



仏法僧が帰ってこい〜
(平成28年5月1日)



市の鳥コノハズクの今年の初鳴は四谷でした。鳳来寺山はまだです。5月5日、

「鳳来寺山のフッポウソウ」を作詞、作曲したシンセサイザー音楽で世界的に有名な富田勲さんが亡くなられたとの連絡が入りました。作曲りのために何度か来館され、コノハズクの生態や仏法僧のエピソードを熱心に聞かれました。また、子どもの時に聞いた鳴き声の感動や鏡岩での演奏会の構想を熱く語ってくれました。参道の石段をふみしめながら、当時の感激を確かめているようでした。ご冥福をお祈りします。

ミュージアムフェスティバル
(平成28年5月3日~5日)

開館53周年感謝祭です。期間中1,123人のお客様が宝石さがしやゲーム展示見学を楽しんでい

いられました。友の会の博物館協力隊のみなさんもおおせい応援に来てくれました。感謝。



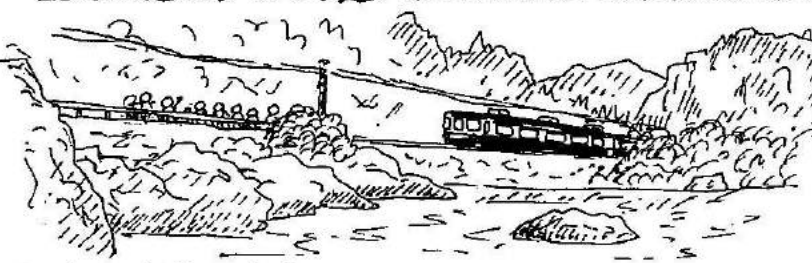
コノハズクの声聞く会
(平成28年5月14~15日)

友の会員限定行事です。鞍掛山と宇連山方面に分かれて調査に出かけました。宇連タムの奥まで行ったグループは確認できず、仏坂峠のグループは鳴き声聞くことができました。宿泊組は、仏坂の設楽町側で2羽の鳴き交わりを聞くことができました。

ジオツアー「豊川の段丘地形と戦跡めぐりI」
(平成28年5月22日、晴、23名参加)

新城市内を流れる豊川は、低位、中位、高位の段丘をつくっています。その地形を利用して、戦国時代にいくつかの城が築かれました。五百の城兵で一万五千の武田軍と対峙した長篠城は、その代表です。現地に立つと、いかに攻めにくい堅城であったか実感できます。設楽原の決戦場も段丘を利用して陣地がつけられ、馬防柵を組み、戦闘が行われました。地形と地質を読む力が勝敗を分けました。

「望月街道を歩いて宇連川沿いの植物を観察しよう」(平成28年4月30日、晴、42名参加)



若葉が香る絶好の学習会日和でした。街道沿いに見られる植物を、すべて観察する勢いで始まりました。三河川合から湯谷温泉までの宇連川の景観と春の植物との組み合わせが新鮮でした。

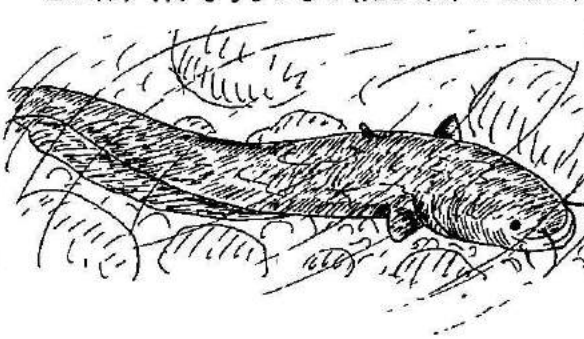
おさわがせします (平成28年4月14日)



豊橋市中原町でフクロウが保護され、当館にやってきました。左翼を負傷して飛べないようです。でもエサはぺろりと食べます。翌日早朝には、運ばれてきたダンボール箱から脱走し、事務室内を動きまわったため、警備会社が出動する事態になりました。人さわがせです。

開放されました (平成28年4月25日)

昨年の7月28日に、豊川(寒狭川)の広見マナで捕まり、生簗の魚を食べまくって博物館の水槽に追放されたナマスです。ひと冬、見学のみなさんに見てもらい、



はれてふるりの川に帰れることになりました。大きな川で、思うぞんぶん食べて、泳いでください。

学術委員総会・友の会総会
(平成28年4月24日)

友の会総会での学術委員の水谷先生の講演は、新城市のヒミツセミナーについてでした。



愛知県の石に「松脂岩」決定
(平成28年5月10日)

日本地質学会の地質の日に、全国の県の石が発表されました。愛知県の石は鳳来寺山の「松脂岩」です。つまり、新城市の石が県の石に選定されたこととなります(市の合併5周年を記念し、平成22年10月に制定)。発表の標本写真は当館提供です。

鳳来寺山の鏡岩

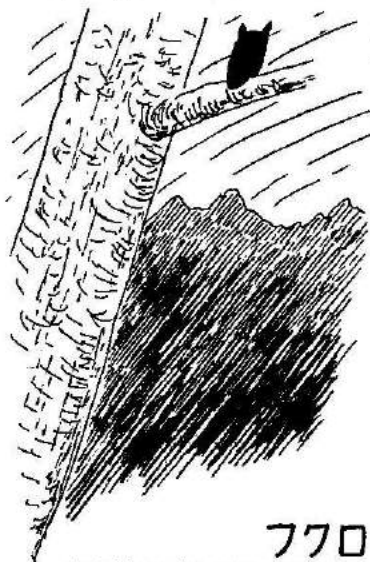


学校の博物館利用状況

- 5月7日 鳳来中学校1年生(575+18名)
- 5月25日 鳳来中部小学校5年生(32+5名)
- 5月26日 作手中学校1年生(13+4名)
- 5月27日 豊橋南高校1年生(278+6名)

市のカエル「モリアオガエル」初産卵
(5月1日)参道の防火水槽に産卵しました。

梅雨の頃の博物館



コハズブの生息調査

今年は4月29日をかきりに調査を開始しました。黄柳野高校のグレートアースのメンバーも協力してくれました。これまでのところ鳳来寺山では、鳴き声を確認できていません。

仏坂峠周辺、明神山ではよく鳴いていました。

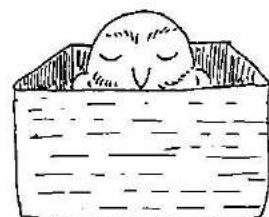
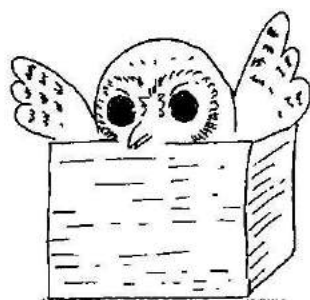
フクロウ入卒式

(平成27年7月15日、20日)

15日、瀬戸市からフクロウの若鳥がやってきました。獣害防止用の網にからまり動けなくなっているところを保護されました。

ケカはないようですが飛べません。受け入れて様子を見ることにしました。

今年の4月14日に豊橋市から来ていたフクロウは、翼の状態もよくなってゲージの中を飛びまわれるまでに回復しました。そのため、20日に地元の豊橋で放鳥するように、県の環境保全課の職員に引きとられていきました。



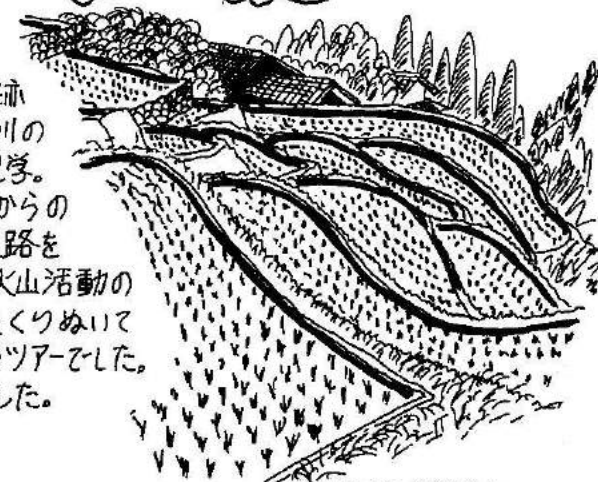
博物館の利用と出前講座

- 5月25-27日 東郷中学生、神山君 職場体験
- 6月23日 田原市中部小学校5年生(S64+T6名)
- 6月24日 盤田市東部小、豊橋市大村小学校
- 6月29日 豊田支援学校(S54+T16名)
- 7月3日 舟着小学校5-6年生(S21+T5名)
- 7月4日 鳳来寺小学校3年生へ出前(S11+T2名)
- 7月7日 JA文化講座「奥三河のきのこの多様性」
- 7月14日 庭野小学校5-6年生「乳岩、馬背岩」(S7+T2名)
- 7月22日 名古屋市滝子幼稚園(S69+T8名)
- 7月27日 名古屋スポーツ教室(44名)
- 7月28日 豊島ふれあい教室(S30+6名)

ジオツアー
「田口鉄道沿線の地形と地質見学」
(平成28年6月26日、はれ、49名)

昭和43年に廃線になった田口鉄道跡を歩きました。山びこの丘を出発し、海老川の河床に現れた1700万年前の海の地層を見学。続いて大石駅のあった大石へ。大石は棚山からの転石で、松脂岩でできています。ここから線路を歩いて双瀬のトンネルを目指しました。設楽火山活動の後期に貫入してきた安山岩マグマの岩床をくりぬいて作られています。旧海老駅までの約7kmのツアーでした。ゆっくり、じっくりジオを楽しめました。

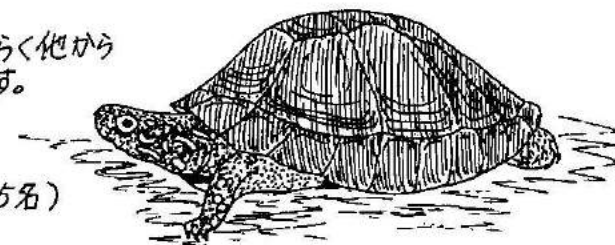
はつなご 184
2016.7



野外学習会

「四谷干枚田で生きものを観察しよう」
(平成28年6月5日、くもり-雨、40名)

昨年に続いての開催です。モリアオガエルの卵塊、タニシ、カワヨシホリ、ドジョウ、アカハライモリなど、水田や小川に生息する生きものたちと出会うことができました。

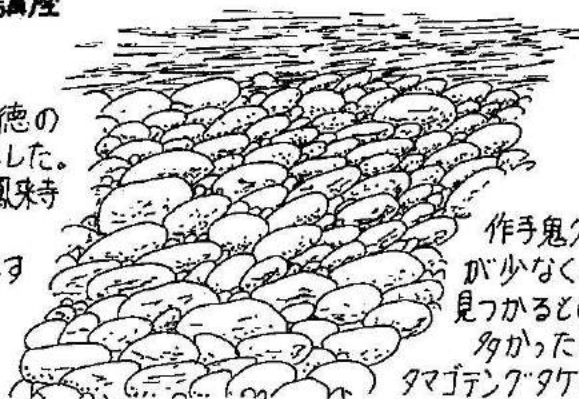


クサガメ来る
(平成28年7月19日)

四谷の干枚田で捕獲されました。新城市内では里田地内で記録がありますが、最近は見つかっていません。四谷では初記録となりますが、おそらく他から持ち込まれたものと思われる。

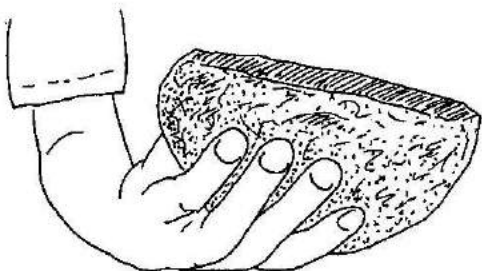
野外学習会「川原の石の観察と標本作り」(平成28年7月24日、くもり、35名)

豊川上流の只持、海老、黄柳野の川原へ出掛けました。只持は領家帯の石、海老は設楽火山岩類の石、黄柳野は三波川帯の石が見られます。それぞれに、地形や石の大きさ、丸み、並び方なども観察しました。最後にこれらの川が合流した豊川中流の桜淵の川原に向かいました。ここでは、上流から運ばれてきた様々な石をほとんど見ることができます。標本に適した典型的な石をさがす適地です。花崗岩、片麻岩、流紋岩、松脂岩、凝灰岩、砂岩、泥岩、礫岩、蛇紋岩、緑色片岩、黒色片岩などを標本にすることができました。



子ども&子どもにかえりたい大人の自然講座
「石器づくり」(平成28年7月7日)

夏休み直前の開催でした。はじめに、高徳の谷へ入って、石器に適した石材をさがしました。この谷川では、硯石に使う頁岩や鳳来寺山の松脂岩、流紋岩が手に入ります。持ち帰った石は形を整えて石器にしますが、頁岩は研磨して包丁を作りました。草や野菜で切れ味をためしました。松脂岩や流紋岩は、むすかしかったです。



鳳来寺山
自然科学
博物館



友の会行事「初夏のきのこ」
(平成28年7月10日、はれ、28名)

作手鬼久保広場で実施しました。今年の梅雨は雨が少なく、この日も心配でしたが、56の眼で見ると見つかるので、67種が確認されました。多かったのはテンブタ科のきのこで、ハビキノコモドキやタマゴテンブタ科モドキなどでした。美しいムササギマドリタケもありました。M



博物館と夏休み



子ども&子どもにかえりたい大人の自然講座 「コケを知ろう」(平成28年8月21日、はれ)

日陰者の印象があるコケですが、近頃、脚光をあびているようです。本講座は、定員いっぱい19名の参加がありました。コケ初心者ばかりですので、コケとほとんどの植物のなかから始まりました。続いて野外での観察と採集です。午後、持ち帰ったコケの試料を実体顕微鏡と生物顕微鏡を使って、じっくり観察し、スケッチしました。コケは体が小さいので、顕微鏡が必要です。レンズ越しに見えるコケは美しく、細肥の並ぶようすや、胞子体の姿など、別世界をのぞいているようでした。身のまわりのコケが、とても魅力的に感じられるようになりました。



山の日施行記念登山 (平成28年8月11日)

はつかり 16.185
2016.8

今年、山の日(祝日)が施行されたことを記念し、友の会で登山を企画しました。第1回は、会報のタイトルにもなっている瑠璃山に決まりました。瑠璃山は、鳳来寺山頂(684m)の近くの最高点で、標高は695mあります。博物館職員も含め、総勢25名の登山隊でした。石段の参道から本堂、鏡岩を経て奥の院、山頂へ登り、午前中に瑠璃山に無事到着。そして登頂。午後は尾根つたいに天狗岩、鷹打場、東照宮に至り、本堂から道をかえて馬の背岩に向かいました。ガレ場を下って仁王門に出て、再び博物館へ全員帰館。真夏の登山で大汗をかきましたが、本年に県の石となった松脂岩でできた鳳来寺山をしっかりとふみしめて歩くことができました。気分も爽快。もうすでに次の山の話題でとりあかりました。来年も実現できるといいです。

中学生の職場体験

学校の夏休みを利用して、市内外の中学生在職場体験にやってきました。

- 8月1日 豊根中学校・石田君
 - 8月2~3日 于郷中学校・山本、加倉君
 - 8月3~5日 新城中中学校・柿原君
 - 8月24~26日 鳳来中学校・小笠原君
- 博物館は、どんな職場に感じたでしょうか。



おとし3実験教室 (平成28年8月5日)

市内于郷中学校内にあるちさと館で開催され、参加してきました。当館のだしものは、①石のふるさと、②石の中の宝さがし、③本物の石をさがそうでした。開場前からぞくぞくと子どもたちが集まり始め、1時間半ほどの出前でしたが、300人以上が来場しました。豊橋市や蒲郡市からも博物館が出張して参加くださいました。

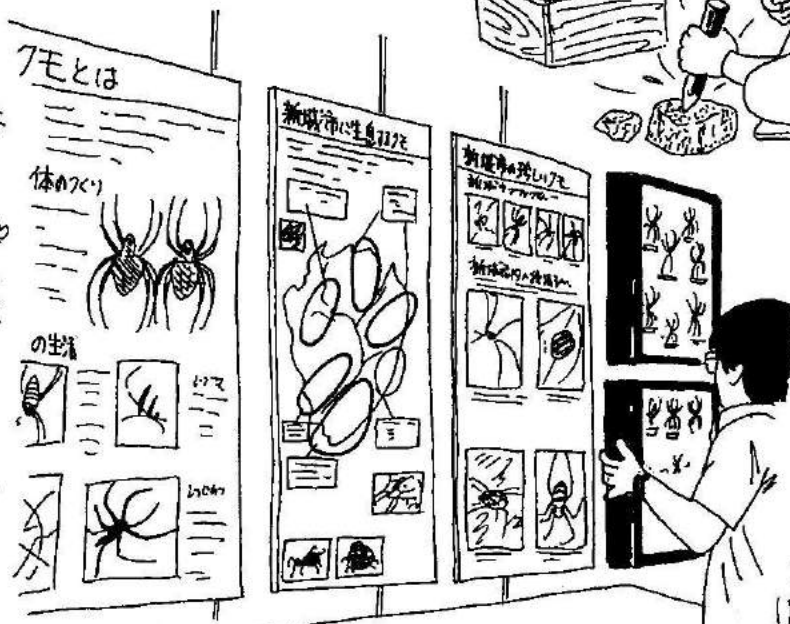


初任者研修 (平成28年8月22日)

東三河の初任者教員(82名の新任の先生)の研修で、博物館の見学がありました。次は生徒さんと来てください。

学芸員実習とワモ展示(平成28年8月8日~8月14日)

地元出身で学芸員をめざす平松君が実習に来ました。家も近くなので、職員と同じように朝のミーティングと館内のぞうじから始まります。実習では、展示の解説作りやミュージアムショップの標本作り、保護動物の飼養などと体験してもらいました。後半では、常設展示室の空きスペースを活用して、ワモの展示コーナーを作ることになりました。数年前から計画が実現できていなかったものです。やっと見てもらえるようになりました。



野外学習会「山びこの丘と海老川の生きものを調べよう」 (平成28年8月7日、はれ、41名参加)

海老川では初めての観察会でした。魚類は、カワヨシノボリやカワムツが多く見られました。また、この地方でアカサッシーと呼ばれるアカサも観察できました。ネコギギの仲間、背と胸びれのトゲで刺されると、かなり痛いのです。水生昆虫の調査では、ヤマトヒゲケラ類とヒラクトロムシが多く見られました。カワゲラやナガレヒゲケラ類も見られたことから、海老川は「きれいな水」と判定できました。17の間には私たちのまわりに、水遊びの家族の群がで、魚釣りも人が多くなりました。



秋のおとずれと博物館

野外学習会「うでこき山の秋のきのこを調べよう」
(平成28年10月2日、土り、39名参加)

9月の後半は雨が多くて暑く、きのこには最適の条件でした。桜淵公園にある青年の家で開催した学習会は、ずらりときこのこが並びました。名前がつけられたものだけでも86種、不明なものは、右図の五重の塔きのこも含め、たくさんありました。



野外学習会「大原調整池と平尾山の秋の植物を観察しよう」(平成28年9月22日、雨、28名参加)

雨の中での観察会になりました。昨年の雨生山から南西に続く山で、地質的には、三波川変成帯の御荷銚緑色岩類が分布する地域です。尾根を境に静岡県浜松市になります。塩基性岩に特有のクマノミズキやコウヤササ。海に近いので、海岸線に生えるハスノハカズラなど、特別な植物と出会うことができました。

尾根からは浜名湖が目の前に見える



鳳来寺山
自然科学
博物館



まるで五重の塔
(平成28年9月30日、10月2日)

こんなきのこは見たことがありません。どこの図鑑にも出ていないと思っていたら、外国の図鑑に似たきのこが載っていると教えてくれる方がいました。Podoserpulo属のきのこであろうとのことでした。

9月30日に黄柳野、10月2日に庭野(うでこき山)で見つかりました。貴重な記録になるかもしれません。

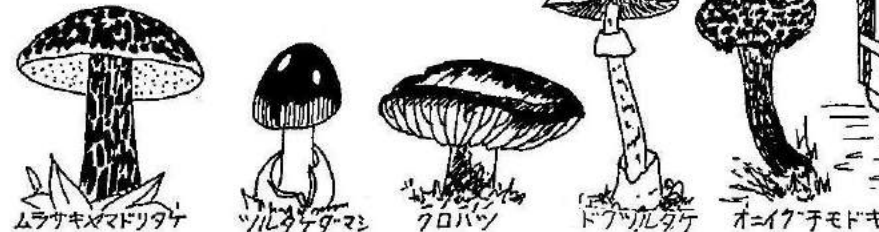
学校利用、ガイド、講演など

- 9月7日 里山研究所ガイドツアー
- 9月9日 名古屋大学地球科学科学生見学ガイド
- 10月11日 教員の為の博物館の日 in 蒲郡
- 10月19日 東郷西小学校、黄柳野高校クレーナース、黄柳野高校生インターンシップ
- 10月20日 東海シニア自然大学ガイドツアー
- 10月28日 新城ロータリークラブで講話



きのこ展(平成28年9月18日~10月23日+5日)

例年のきのこ展よりも開催期間を1週間早くしました。今年は9月の高温多湿の影響で、夏によく発生するイクチ類、テングタケ類が非常に多く発生しました。当館のきのこ展は期間中、野生きのこを生の状態で展示します。入れ換えはとてたいへんです。しかし、季節の変化、を次々と発生するきのこが教えてくれます。



はつなご 16.186
2016.10

鈴木和博先生逝去(平成28年10月15日)



「名大年代測定センター長の頃から大変お世話になっていました。平成22年からは当館の学術委員になっていただいていた。」

世界に先駆けてCHIME年代測定を創案され、世界中で使われるようになった地質年代測定法を実用化した先生です。津具金山の金、鉾石や愛知県の石にもなった松脂岩の分析を

進めていただいている最中でした。野外学習会の講師として下見の直前の突然の訃報でした。

「新城市の自然誌-地学編-」の執筆、特別展、学習会とすべてに全力で取り組んでくださる、素晴らしい先生でした。

心よりご冥福をお祈りします。

日本ジオパーク伊豆半島大会
(平成28年10月11日)

東三河ジオパーク構想推進準備会として全国大会に参加してきました。今回は愛知県、東三河の担当者が集っての参加でした。今年は新たに4地域が「日本ジオパーク」に認定され、全国に43地域のジオパークとなりました。東三河は現在準会員、仲間入りをめざしています。



学芸員実習、研修(平成28年9月1日~9月11日)



設楽町の神田さんが学芸員資格の取得を目指して実習に来ました。

10日間の実習期間中に石の利用コーナーの改修に挑戦してもらいました。最終日にみごと完成させることができました。

また、9月6日には名城大の学芸員養成のクラスが、収蔵・保存に関する授業で、当館の視察研修にやってきました。

博物館の秋から冬

はつなご 187
2016.12



ミュージアムフェスティバル (平成28年11月19・20・23日)

今年も天候にめぐまれました。協力隊員
ものべで21名が出動してくれました。
やはり人気は宝石さがしで、毎年それを楽
しみにやって来る子といます。今年もさらに人気
がシカ角投げ輪でした。高得点で高価な景品を
ゲットしていきました。
館員としては笑顔で泣いていました。

奥三河の大地をめぐるジオツアー (平成28年12月11日、はれ、48名参加)

花まつりの鬼ごっこでラッピングされた大型バス
に満席で出発しました。今回のテーマは大地に
刻まれた1600万年の旅です。鳳来を出発したバス
は一路茶臼山(面)木方面を目指しました。
愛知県の最高峰、茶臼山からは、設楽層群と
呼ばれる奥三河でおきた大規模な火山活動の
岩石からなる山々が一望できます。
面)木の天狗棚では海成の基底
礫岩の巨礫が観察できました。

博物館大そうじ大会 (平成28年12月25日)

博物館協力隊のメンバー17名
がかけつけてくれました。展示室班
標本班、パネル整理班、屋外班
などに分れて取りかかりました。
昼休憩は澤田隊員提供の
シ肉入りの鍋を皆で囲みました。
きれいになった博物館で新年
を迎えることができます。
協力隊のみなさん、一年間
ありがとうございました。
これからもよろしく願います。

「鳳来寺山の火山活動の証拠を求めて」学習会 (平成28年11月13日、はれ、30名参加)

鳳来寺山がかつて火山であった証拠をさぐるため、まず
館の展示で予習をし、それから山へ向かいました。
麓では海成層の泥岩が観察され、火山の証拠があ
りません。登山口に近づくにつれて泥岩に火山灰が混ざりほ
じめます。右手の崖では大規模な火砕流堆積物が
現れます。仁王門前の岩壁、龍の仏あと、鏡岩と松脂
岩、テイスサイトなど登山につれて次々と火山活動の証拠
が観察できました。愛知県の石「松脂岩」の成因につ
いては、まだまだ謎が多いですが火成岩になります。



門松が立つ (平成28年12月31日)

今年も友の会
の丸山会長が
作ってくれました。
材料はすべて
現地調達の
手作りです。
迎春の準備
が整いました。



ジオツアー「豊川の段丘地形と戦跡めぐりⅡ」 (平成28年11月27日、くもりち雨、18名参加)

新城城のあった新城小学校からジオツアーが始まり
ました。校庭脇には堀の一部が残り、桜淵公園に降
りる坂道では段丘崖の礫層が確認できます。
次は野田城跡。こちらで豊川の中位段丘とそれを
切り割る支流によってできた天然の堀をたくみ
に活かした城でした。
続いて豊川の霞堤を見学し、吉田城へ向かいました。
吉田城は河口に近い中位段丘に建つ城です。舟運が
可能だったので、花崗岩やチャート、石灰岩など近隣の石
が石垣に使われています。
帰路は中位段丘にある貝化石産地と今川義元の墓、扇状地をめぐりました。

出前講座・ガイドツアー

- 11月4日 ちさと文化講座「きのこ観察」
- 11月5日 陶磁美術館のきのこ観察会
- 11月6日 OS本Uガイドツアー
- 12月3日 市P連「新城の自然を知ろう
めざせネイチャーマスター」

ナイトミュージアム (平成28年11月19・26日)

もみじ祭でおこなわれる千の灯火に
あわせて、夜の開館をしました。
ロビーで光る石の解説とブラックライト
での美演、館の展示解説を
したところ、とてもよこんで
もらえました。気をよく
して来年も楽しいおも
てなしを企画します。



友の会40周年 博物館と共に歩んだ道のり

鳳来寺山
自然科学
博物館

はくぶつかんだより No.188
2017.2

年度	会員数	主なできごと
1976 昭和 51年	75	鳳来寺山自然科学博物館友の会設立、年会費600円
52	21	仏法僧コーナー新設
53	48	稲目トンネル開通
54	115	
55	101	
56	104	
57	141	山びこの丘民俗伝承館開館
58	126	博物館増築(学習室、図書室)、開館20周年式典開催
59	113	
60	116	鳳来町制30周年
1986 61	101	
62	85	
63	165	
平成 元 187		
2	235	はくぶつかんだより創刊
3	300	学習会参加証付会員証発行、消しゴム印押印
4	227	友の会員の精励表彰始める(学習会皆出席者)、会費改定
5	238	六本杉伐採
6	384	仏法僧シンポジウム開催
7	238	第2回仏法僧シンポジウム開催、開館30周年式典開催
8	308	家族会員制開始、会費改定(大人1,000円、子ども700円、家族3,000円)
9	382	第1回友の会総会、役員選出、会則制定、記念講演始める
10	334	友の会会報誌「瑠璃山」No.7創刊、第2回総会
11	375	第3回友の会総会(以後毎年開催、瑠璃山発行)
12	366	友の会独自行事「梅雨のきのこ観察会」、「コハズク調査」始める
13	422	とみじまつイベント「博物館感謝祭」、きのこ展協力始める
14	613	友の会設立25周年記念式典開催
15	734	館長と歩く鳳来の自然シリーズ開始
16	698	館長と歩く自然シリーズ、平成20年まで続く
17	917	博物館協力隊結成、グループ会員制導入(20%5000円、100%10,000円)、博物館大規模改修工事、開館40周年記念式典開催
2006 18	813	博物館内部改修工事、日本博物館協会自然史部門指導者研修で事例発表
19	658	鳳来、作手、新城が合併し、新「新城市」誕生、友の会30周年記念式典開催、全国博物館大会で「友の会」の事例発表
20	808	ジュニアナチュラルist養成楽級開始、第1回「川ガキ教室」
21	685	ジュニアナチュラルist第2回「山ガキ教室」
22	659	ジュニアナチュラルist第3回「石ころ教室」、開館45周年
23	661	博物館バリアフリー化等改修工事
24	611	鳳来寺高校閉校、東日本大震災(3.11)、秋のミュージアムフェスティバル始める
25	470	友の会35周年記念式典開催、全国博物館大会で「小規模博物館の運営」について発表
26	411	新城ジオパーク構想発表、春と秋のミュージアムフェスティバル始める
27	376	博物館開館50周年記念式典開催
2016 28	370	東三河ジオパーク構想シンポジウム開催
		長篠城址史跡保存館、開館50周年
		友の会40周年記念式典(H29.3.5)累計会員数14,791人、10年以上の長期会員90%

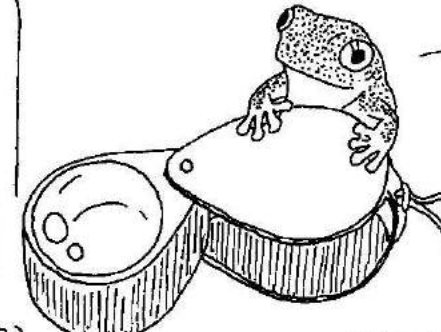
はくぶつかんだより

会員への手紙のようなつもりで始めた「はくぶつかんだより」。館の出来事をお伝えします。

博物館学習会に休まず出席し、参加証のスタンプが全てうまると、友の会総会で表彰されます。記念品は初回は1ル-ペが定番です。友の会のマスコットモリアオガエルと1ル-ペが使われています。



大人1000円
子ども600円



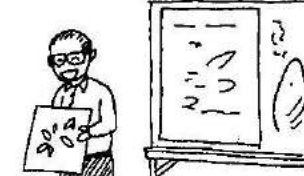
コハズク調査

春の生息調査、冬の巣箱調査を毎年おこなっています。この調査で、コハズクだけでなく、モモンガやヤマメの生息も確認されました。

会員表彰



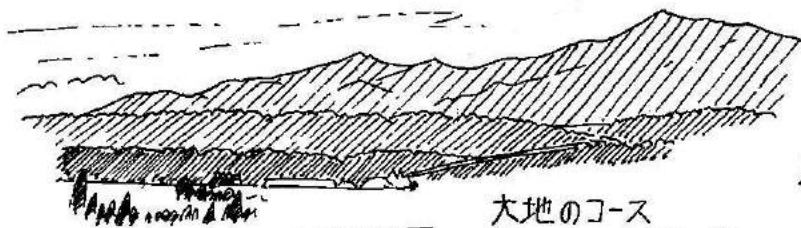
記念講演



秋境探検

協力隊





春を待つ



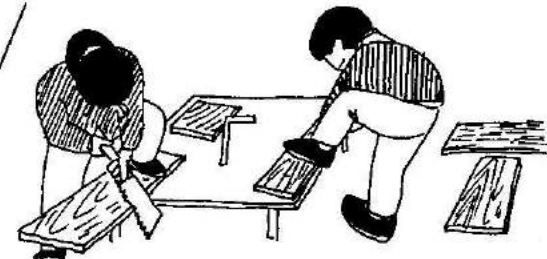
東三河ジオパーク構想シンポジウム・ミニジオツアー
(平成29年2月19日、豊川市-宮生涯学習センター)

大地のコース
「豊川と大地の変動を感じる
浪漫コース」
・旗頭山～牛の滝～本宮山麓扇状地～
手取山
歴史のコース
「豊川の流れるが織りなす人と自然の歴史コース」
・牧野城跡～霞堤～瀬木城址～
三明寺～五社稲荷社～寛見神社

豊川市を舞台に開催しました。
第一部は「ジオパークっておもしろい」のテーマで、南アルプスジオパークの藤井利依子さんが講演しました。
第二部は「東三河ジオパーク構想～豊川のジオサイトの魅力～」で、講師は豊橋市自然史博物館長の松岡敬二さんです。豊川市を中心に、71名が参加されました。午後のミニジオツアーでは、歴史コースに13名、大地コース36名に分かれ、ジオを楽しみました。



はつかなだり 16.189 2017.3



コハズクの巣箱づくりと巣箱調査
(平成29年2月22日・26日)

黄柳野高校「グレートアース」のメンバーが新城市の鳥であるコハズクの保護活動に協力してくれています。春の鳴き声調査について、繁殖用の巣箱の作成と、過去に設置した巣箱の追跡調査をおこないました。

巣箱には、シジュウカラやヤマガラスの他に、モモンガ、アカネズミ、カマドウマヤクモなどがくわらしてました。朽ちたり、落下してこわれたものは新しい巣箱に掛けかえ、コハズクを待つことにしました。



運営審議会の開催
(平成29年2月8日)

博物館の28年度事業と29年度の事業計画について審議されました。

市内小中学校へ出前してきました。

2月3日、八名中学校1年生、39名
2月6日、東陽小学校6年生、13名
校区内にある岩石、地層について学芸員が先生になって授業をしました。市内には現地で見られる教材がたくさんあります。

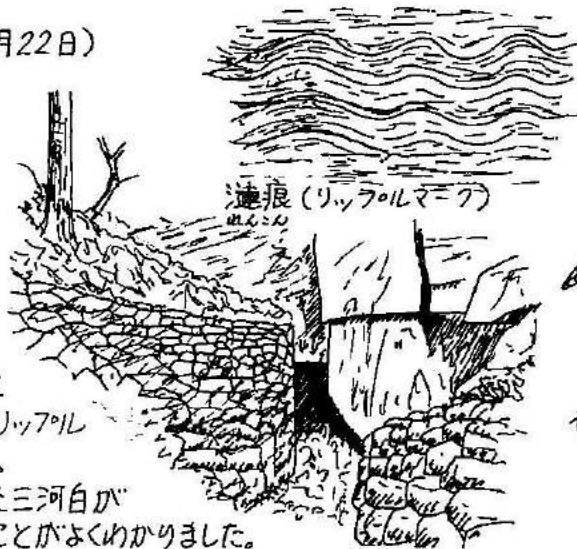


冬の秘境探検 (平成29年1月22日)

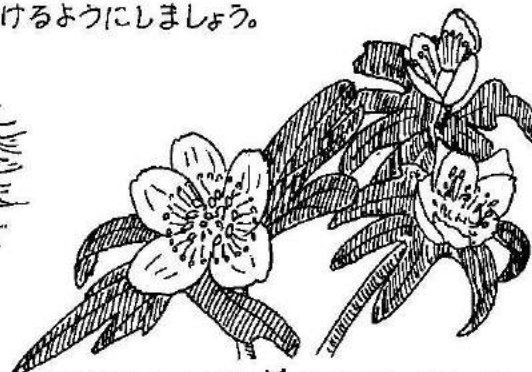
幻の三河白(名倉砥)の産地をたずねました。守連川上流の砥石沢をさかのぼり市の天然記念物の障子岩を越えて、さらに山深くにありました。

すでに採掘はされておらず、坑口も埋もれかかっている状態でした。近くには、火山灰が水中に堆積したときに波状のようができたリップルマークがよくわかる露頭もありました。

全国的に知られ、愛用されてきた三河白がたいへんな場所から運ばれていたことがよくわかりました。



連痕(リップルマーク)



セツブンソウ咲く (平成29年1月30日)

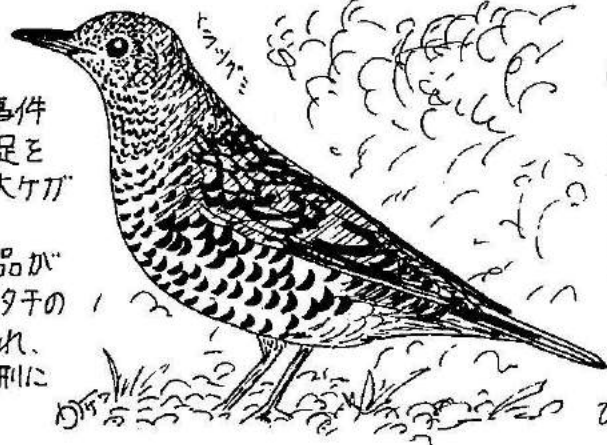
節分が近づいたこの日、博物館中庭のセツブンソウが咲き始めました。毎年、咲く時期を間違えずに花を開きます。この花を見ると春のおとすれを感じます。

学習会「桜淵の野鳥観察と冬越しの虫を探そう」(平成29年1月8日)

彼らの犯行でした! (平成29年2月5日)

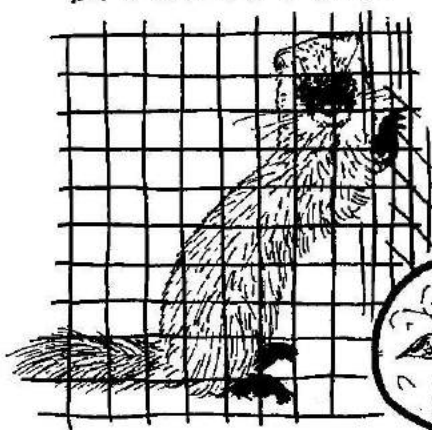
1月16日、コハウスで保護していたオコハズクが何ものかに襲われる事件が発生しました。ケージの外側から足をつかんでひきずり出そうとしたようで、大ケガを負い、息をひきとってしまいました。

現場には、犯人の遺留品が残されていました。後日、19羽の雄と雌が続けて捕獲され、遠く離れた山中に、流罪の刑に処されました。



公園では、珍しいトラツグミの姿を見ることができました。豊川の岸までおりにいくと石にまきれてイカルチドリが動きまわる様子や、水面にゆったりと浮かぶカモ類も見ることができました。

36種の野鳥を確認しました。樹木の洞や朽木の中にはヤマトタンゴムシやワラジムシが身をひそめていました。



春が来た



新城市・愛知県の鳥 鳴く



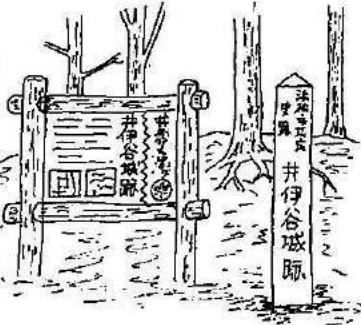
はつかなだり 2017.5

新城市のカエル 卵産む
(平成29年5月12日)

コノハズグの季節になりました。4月から始めた調査の結果、四谷の鞍掛山の4月25日を皮切りに、鳳来寺山、明神山、七郷一色の黒沢で鳴いていました。鳳来寺山では7年ぶりのことです。山の北側にあたるカラ沢の谷に入って確認しました。天狗岩のある尾根の方角から、遠くかすかにしかし確実に鳴いていました。まだまだ調査は続けていきます。

特別展「ジオから見る戦国の舞台」開催 (平成29年4月29日~6月30日)

NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」にあわせサブタイトルを「直虎が生きた時代の東三河の城と大地」としました。昨年の新城地内から、東三河と井伊谷まで範囲を広げました。柳本城、牛久保城、吉田城、田峯城、井伊谷城を新たに紹介しています。直虎が生きた時代には、三河と遠州で今川、徳川、武田がせめぎあっていました。



オオコノハズグを保護する (平成29年2月8日・21日)

山吉田の民家の畑で、糸網にからまり、弱りきっている状態で見つけられた(2月8日)1羽と、一色の道路脇で動けなくなっていた(2月21日)1羽が、どちろと外傷はなく、室内で飼養した後、コハウスに移してリハビリ中です。



コハウス防衛 (平成29年4月2日)

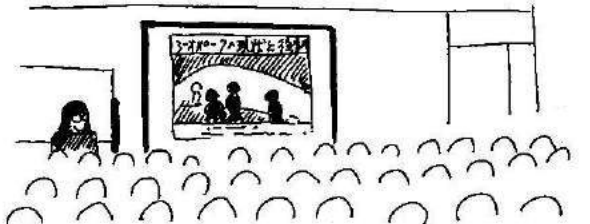
イタチによる襲撃事件の対策として、コハウス全体をより細かい目の網で覆うことにしました。ホームセンターで寒冷紗を購入し、すっぽりとつきました。これでイタチやネコの手(足?)が入ることはないでしょう。

東三河ジオパーク構想・ジオガイド養成

ジオパークを案内するジオガイドをめぐす人たろの養成講座が始まりました。

- 2月25日 ジオパークの現状とジオガイドの役割
- 3月25日 ジオパークと関連法令
東三河の主なジオサイト
- 4月22日 新城市周辺の外帯と中央構造線
東三河の内帯の地形と地質
- 5月27日 東三河のくらしと地形・地質
渥美半島の地形と地質
- 6月10日 東三河の戦国を中心とした歴史遺産
東三河の貝塚と人のくらし
- 6月24日 東三河の植生とその特色
東三河の観光資源
- 7月15日 修了試験

60名の受講生が熱心に学んでいます。試験に合格すると認定講座に進みます。



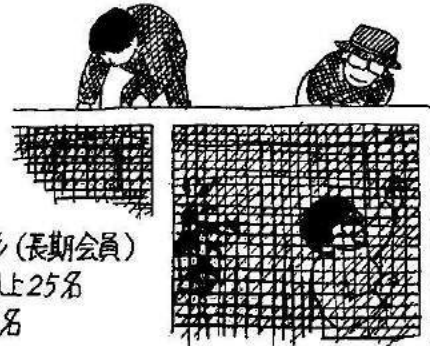
友の会40周年記念式典 (平成29年3月5日、71名参加)

第I部 記念式典

- 丸山会長のあいさつ
- 館長あいさつと会員表彰(長期会員)
10年以上63名、20年以上25名
30年以上2名、計90名
- 穂積亮次市長の祝辞
- 竹之内会員(会員歴32年)の話
- 記念講演: 仲井豊先生
「白い大陸・南極の自然」

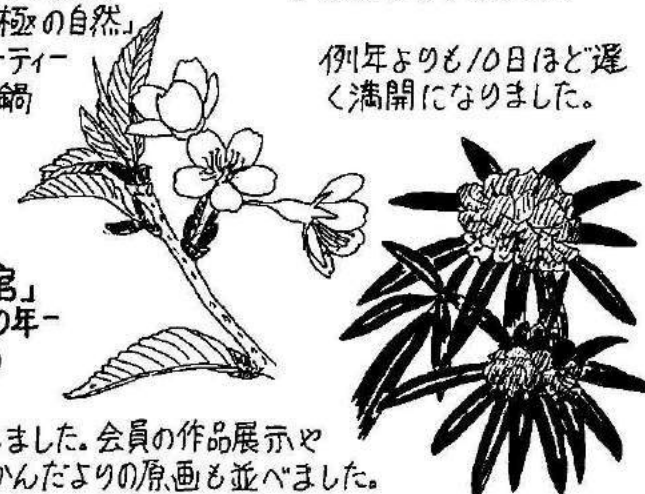
第II部 記念パーティー

- 五平餅、シシ鍋
- 餅つき大会
- くじ引き大会



新城市の木「ヤマザクラ」咲く (平成29年4月5日)

例年よりも10日ほど遅く満開になりました。



特別展「みんなの博物館」 -博物館と歩んだ友の会の40年- (平成29年3月1日~3月31日)

友の会の40年間の足跡を紹介しました。会員の作品展示や瑠璃山、消しゴム出席印、はくぶつかなだりの原画も並べました。



記念DVD



記念バッジ



野外学習会 「県民の森のホソバシメクナゲと春の植物」 (平成29年4月29日)

さわやかな春風の中で25名が新緑につつまれて観察しました。ホソバシメクナゲはちょうと咲きはじめ。この地方にのみ自生する貴重な植物で、旧鳳来町の花でした。今年は5月中旬まで花を楽しむことができました。